街頭撮影からみた婦人の着装傾向(第2報)
—— 冬季の衣服について ——

藤井一枝・阿部邦子
(被服構成学研究室)

A Research into the Trend of Women's Dressing through Photographs Taken in the Street
—— On Winter Clothes ——

Kazue FUJII, Kuniko ABE

I. 緒言

既製服が大量に市場に出回り，地方にまで普及している今日，婦人の服装に対する意識も高まり，その服装も多様化，個性化されつつある。そこで，最近の婦人の着装傾向を街頭撮影により観察し，これからの衣生活資料として役立てようと考えた。本学紀要第21号では夏季の服装についてまとめたが，服装傾向は季節により異なるところから，今回は第2報として冬季の服装について同様の方法で街頭撮影を行い，冬の婦人の着装傾向を把握するとともに，夏との比較も行った。

II. 研究方法

第21号と同様に買い物客を対象として，同じ場所で400㎜望遠レンズ付カメラにより，街頭撮影を行い，そのカラー写真より婦人の服装を読み取った。撮影日の気象条件は表1に示す通りである。撮影時刻は午後1時より午後5時までとした。撮影総枚数は1,080枚で，同一人物が重複したり，服装の形態が読み取れなかったものは省き，実総枚数は712枚となった。この実総枚数に写された783人について，始めに第21号と同様に年代層別に分類した。その結果，若年層301人，中年層359人，老年層123人となった。そこで，年代層別に個々の着装形態，衿の形，スカートの形，色系統，柄の種類および上衣と下衣の色・柄の組み合せの8項目についてカラー写真より読み取って集計した。

表1　撮影日の気象

(松江地方気象台より)

年月日	天候	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	相対湿度(%)
1983. 2. 26	晴	4.0	8.9	0.2	68
1983. 3. 5	くもりときどき雨と雪	3.7	6.6	1.4	60

III. 結果および考察

1. 着装形態

冬の着装形態について，下衣はスカート形式とパンツ形式に分類し，上衣の種類として長コート，半コート，ジャケット，ジャンパー，カーディガン，セーター，ベスト，セーターとベストの組み合せ，さらに上・下衣つづきのジャンパースカート，ワンピース，上衣と下衣が同じ布地でできたツーピース(スーツを含む)，パンタロンスーツの12種類に分類した。年代層別にまとめた結果は表2に示す通りである。表より，冬季の着装形態は25種類にもなり，夏の11種に比べて種々の着装形態がみられた。これは，夏にみられなかった服種が着用されたことと重ね着によるものと思われる。冬季の着装形態として全体では，スカートと長コートが23.1%で第1位を占め，つづいてスカートとジャンパー14.3%，

表 2　年代層別着装形態

着装形態 ＼ 年代層		若年層		中年層		老年層		全体	
		人数(人)	着装率(%)	人数(人)	着装率(%)	人数(人)	着装率(%)	人数(人)	着装率(%)
スカート形式	スカートと長コート	31	10.3	108	30.1	42	34.2	181	23.1
	スカートと半コート	39	12.9	27	7.5	10	8.1	76	9.7
	スカートとジャケット	40	13.3	37	10.3	7	5.7	84	10.7
	スカートとジャンパー	67	22.3	39	10.8	6	4.9	112	14.3
	スカートとカーディガン	16	5.3	10	2.8	6	4.9	32	4.1
	スカートとセーター	30	10.0	6	1.7	0	0	36	4.6
	スカートとセーターとベスト	0	0	3	0.8	0	0	3	0.4
	ジャンパースカートとセーター	4	1.3	1	0.3	1	0.8	6	0.8
	ワンピースのみ	1	0.3	6	1.7	1	0.8	8	1.0
	ワンピースとジャケット	5	1.7	5	1.4	0	0	10	1.3
	ワンピースとジャンパー	3	1.0	1	0.3	0	0	4	0.5
	ワンピースとカーディガン	1	0.3	1	0.3	0	0	2	0.3
	ワンピースとベスト	0	0	1	0.3	0	0	1	0.1
	ワンピースと半コート	2	0.7	4	1.1	0	0	6	0.8
	ツーピースとカーディガン	1	0.3	0	0	0	0	1	0.1
	ツーピースとベスト	0	0	0	0	1	0.8	1	0.1
	ツーピース・スーツのみ	11	3.7	21	5.8	1	0.8	33	4.2
	小計	251	83.4	270	75.21	75	61.0	596	76.1
パンツ形式	パンツと長コート	0	0	12	3.3	10	8.1	22	2.8
	パンツと半コート	11	3.7	24	6.7	23	18.7	58	7.4
	パンツとジャケット	4	1.3	23	6.4	10	8.1	37	4.7
	パンツとジャンパー	28	9.3	21	5.8	1	0.8	50	6.4
	パンツとセーター	7	2.3	2	0.6	0	0	9	1.1
	パンツとカーディガン	0	0	4	1.1	3	2.5	7	0.9
	パンツとセーターとベスト	0	0	1	0.3	1	0.8	2	0.3
	パンタロンスーツ	0	0	2	0.6	0	0	2	0.3
	小計	50	16.6	89	24.79	48	39.0	187	23.9
計		301	100.0	359	100.0	123	100.0	783	100.0

スカートとジャケット10.7%の順となっている。パンツ形式は夏の12.5%に比べ，約2倍の23.9%と高い着装率を占めている。しかも夏のパンツ形式は若年層に多くみられたのに対して，冬のそれは中・高年層に多くみられた。このことは，冬季のパンツ形式はファッション性よりも防寒を目的としたものと思われる。その他にも夏にみられなかった服種として，年代層にかかわらず長コート，半コート，ジャンパーが出現しているが，これらの服種もパンツ形式と同様に防寒を目的とした服種といえるようである。次に，年代層別に着装形態の主な相異点をみると，若年層はスカートとジャンパーが22.3%で第1位を占めているのに対して，中・老年層ではスカートと長コートがそれぞれ30.1%，34.2%と第1位を占めている。また，スカートとセーターの組み合せは中・老年層は極めて少いのに対して，若年層は10.0%と多い。このことは若年層が寒さに強いことも要因の一つと思われるが，むしろ若年層はファッションに対して敏感で，流行を取り入れたり，周囲の人と異なった服装をすることによる自己顕示欲の

あらわれによるものと推察される。

2．衣服の形

1．より冬の着装形態は種々の服種による組み合せで着用されていることがわかった。そこで，これらの服種について個々に衿およびスカートの形を写真より読み取り，年代層別にまとめた。袖の形については，夏はブラウスやワンピースが多く着用されて種々の袖の形がみられたが，冬にはコート類が多いことや，コート以外の服種においてもセットインスリーブが大部分を占めていることがわかったので省略した。

i）衿の形

種々の服種の中で着装率の高い長コート，半コート，ジャケットについて衿の形を観察した。衿の形はテーラードカラー，コンバーティブルカラー，台衿付シャツカラー，フラットカラー，スタンドカラー，タイカラー，およびノーカラーの7種に分類し，マフラーなどでかくれて衿の形の読み取れないものは不明として集計した。その結果は図1に示す通りである。長コートについてみると，全体としてはテーラードカラーが30.0％で第1位，次いでフラットカラー25.6％，コンバーティブルカラー22.2％で，台衿付シャツカラー，スタンドカラー，ノーカラーは少い。年代層別にみると，若年層，中年層ではフラットカラーがいずれも30％程度で第1位，テーラードカラーが22.5％，25.8％で第2位，

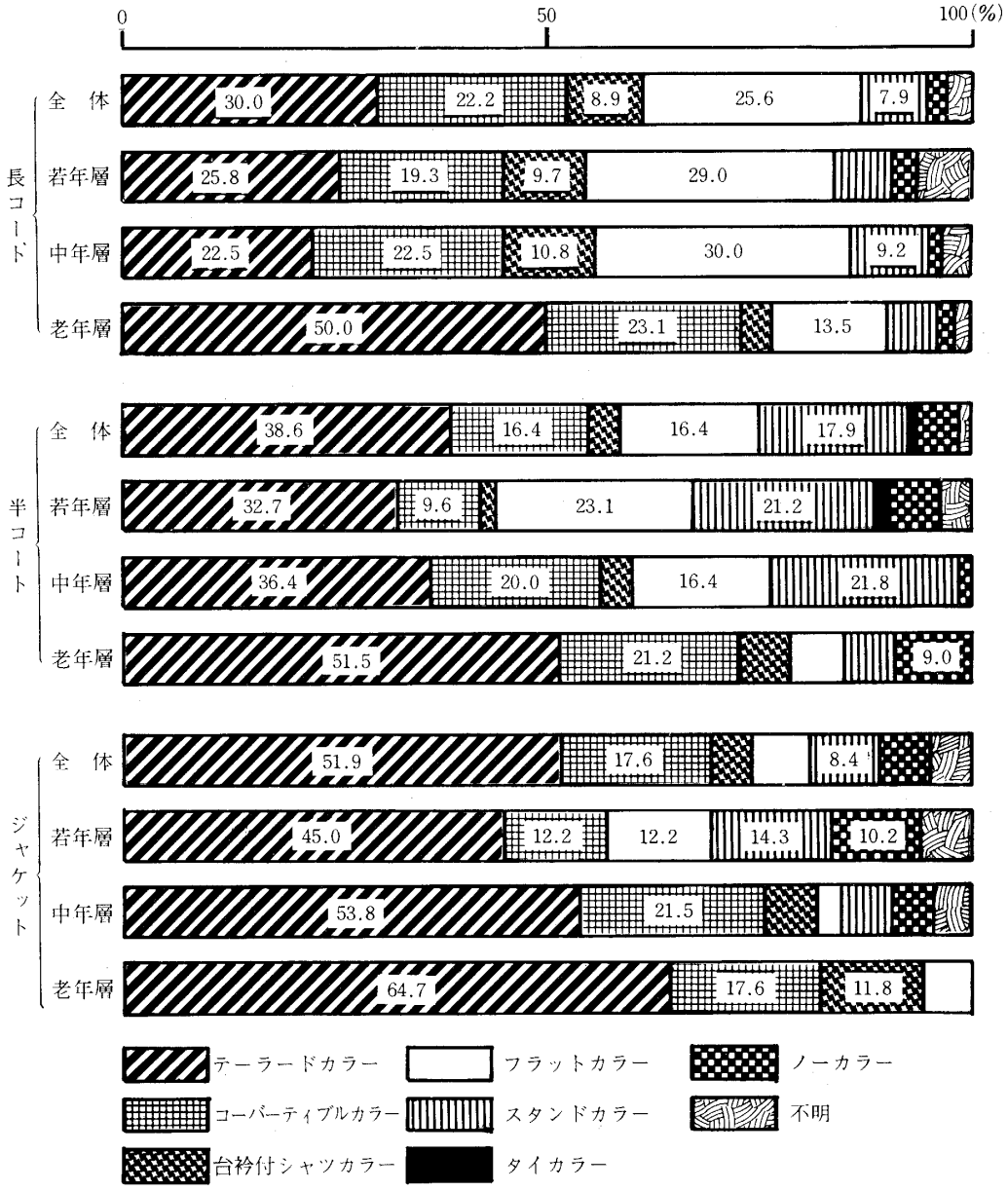

図1　衿の形

コンバーティブルカラーは20％前後で第３位となり，ほぼ似た傾向を示しているが，老年層はテーラードカラーが50.0％と多く，次いでコンバーティブルカラー23.1％，フラットカラー13.5％となり，若・中年層とは異なった傾向を示している。次に半コートでは，全体をみるとテーラードカラーが38.6％で第１位，次いでスタンドカラー，コンバーティブルカラー，フラットカラーが共に約17％程度となり，他は５％以下と非常に少ない。年代層別では，若年層はテーラードカラー，フラットカラー，スタンドカラーは20％以上と多く，コンバーティブルカラー，ノーカラー，シャツカラーは少なくなっている。中年層は，若年層で第２位を示したフラットカラーが第４位を示しているが，若年層とほぼ似た傾向を示している。老年層になると，テーラードカラーが51.5％と若・中年層に比べて著しく多く，次いでコンバーティブルカラー21.2％で，他の衿は10％以下と急に減少している。ジャケットについてみると，全体ではテーラードカラーが51.9％と半数以上を占めて最も多く，コンバーティブルカラーが17.6％とつづいている。そして他の衿は急に減少し，スタンドカラー8.4％，フラットカラー6.8％，ノーカラー6.1％，シャツカラー4.6％となっている。年代層別にみると，若・中年層は衿の形が多種類にわたっているのに対し，老年層はテーラードカラーが64.7％と高率を示し，他の衿は急に減少し，コンバーティブルカラー17.6％，シャツカラー11.8％，フラットカラー5.9％のみで衿の種類は少ないことがわかった。また，長コート，半コート，ジャケットの３服種では，タイカラーは若年層の半コートに1.9％みられただけで，まれな衿の形といえる。他の服種については図示を省略したが，着装率の高いジャンパーではスタンドカラーとコンバーディブルカラーが同じ42.8％と多く，フラットカラー14.3％で他の衿の形はみられなかった。また，ワンピース，ツーピースなど他の服種については着装率が少なく衿の形について傾向をみることはできなかった。

ii）スカートの形

スカートの形について，タイトスカート，ボックス・片ひだスカート，ギャザースカート，フレアースカート，総プリーツスカート，ジャンパースカート，キュロットスカートの７種に分類し，年代層別に着装率を求めた結果は図２に示す通りである。

図より，中年層はタイトスカートに比べてボックス・片ひだスカートが37.4％と最も多く，次いでタイトスカート27.7％，総プリーツスカート19.5％の順となっている。老年層をみると，タイトスカートが53.3％と過半数を占めて多く，次いでボックス・片ひだスカートの33.3％で，両者を合せると86.6％にもなり，他はギャザースカートの10.0％，キュロットスカートの3.4％のみである。すなわち，他の年代層に比べてスカートの種類はわずか４種で少ないことがわかった。一方，若年層は分類したスカートの形すべてにわたって着装しており，また，他の年代層に比べてギャザースカートの着装率が

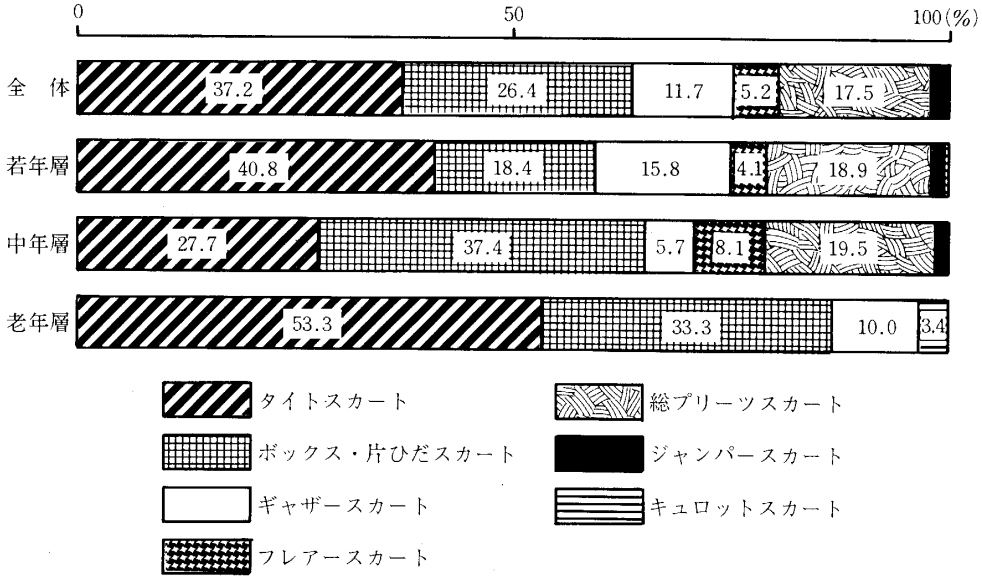

図２　スカートの形

15.8％と比較的高く，中・老年層で着装率の高いボックス・片ひだスカートは18.4％でかなり少ないことがわかった。全体では，スカートの基本形であるタイトスカートが37.2％と第１位を占め，次いでボックス・片ひだスカート26.4％，総プリーツスカート17.5％の順で，まちのついたキュロットスカートは外出着にはほとんど着用されないことがわかった。

３．衣服の色と柄

ｉ）衣服の色

衣服を観察するとき，最初に印象づけられるものは衣服の色である。衣服の色は着用者の好みによって選ばれるが，その人の個性に合い，調和のよい色を日常，選ぶように心掛けなければならないと思う。そこで，最近の婦人が冬季に着用している服装の色について本学紀要第21号と同様に13種の色系統に分類し，服種別，年代層別にカラー写真より読み取った。長コート，半コート，ワンピース・スーツ

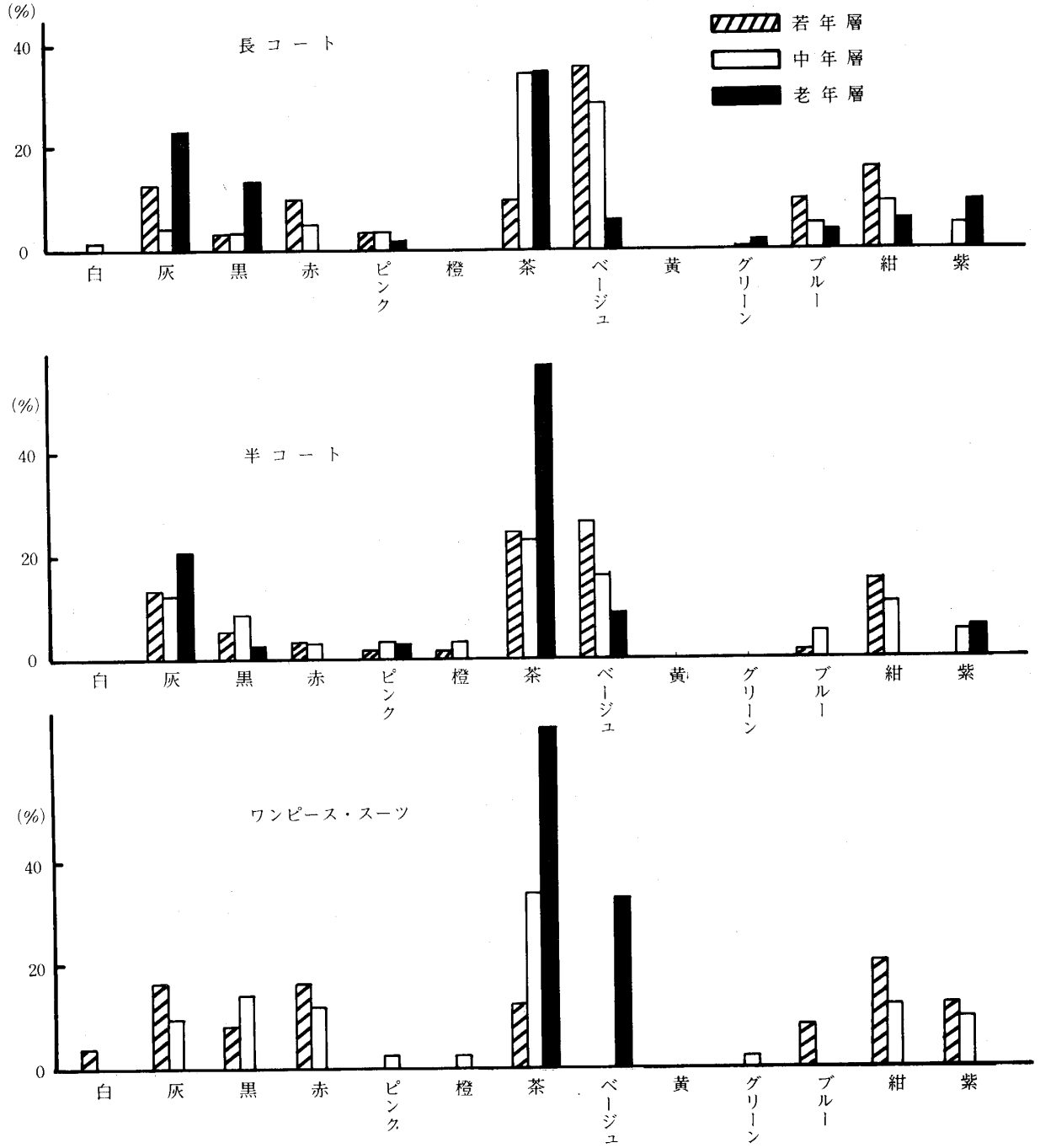

図３　長コート，半コート，ワンピース・スーツの色系統

の結果は図3に示す通りである。図より，コート類は全体では茶，ベージュ，灰色系統と渋い色が多い。長コートと半コートの各々について年代層別にみると，長コートでは，若年層はベージュ系統が35.5％と著しく多く，次いで紺色系統の16.1％であるが，中年層は茶系統34.2％，ベージュ系統28.3％と多く，両者を合せて62.5％を占めている。老年層は茶系統34.6％で中年層とほぼ同じで第1位を占めているが，次いで灰色系統23.1％，黒系統13.5％がつづいて中年層と多少異なっている。半コートでは，若年層は茶，ベージュ，灰，紺系統が大体同じ着用率を示して多いのに対して，老年層は茶系統が57.6％と過半数を占めて多く，ベージュ系統は9.1％で他の年代層に比べてかなり少なくなっている。次にワンピース・スーツをみると，若年層は色系統に片寄りがなく，種々の色系統のものを着用しているのに対して，老年層は茶，ベージュ系統に片寄っており，年代層間に違いがみられる。

図4は上衣の種類としてジャケット，ジャンパー，セーター・カーディガンに分類して色系統を年代層別にみた結果である。図よりジャケットでは，若年層は茶系統が26.5％で第1位を占め，次いで黒系統の14.3％，赤，灰，ベージュ系統が共に同じ12.3％でつづいている。中年層はベージュ系統が21.5％と第1位を占め，次いで茶，灰色系統が共に同じ15.4％でつづいている。老年層は茶系統が35.3％と最も多く，次いで灰色系統29.4％である。次にジャンパーでは，若年層は赤系統が19.4％と第

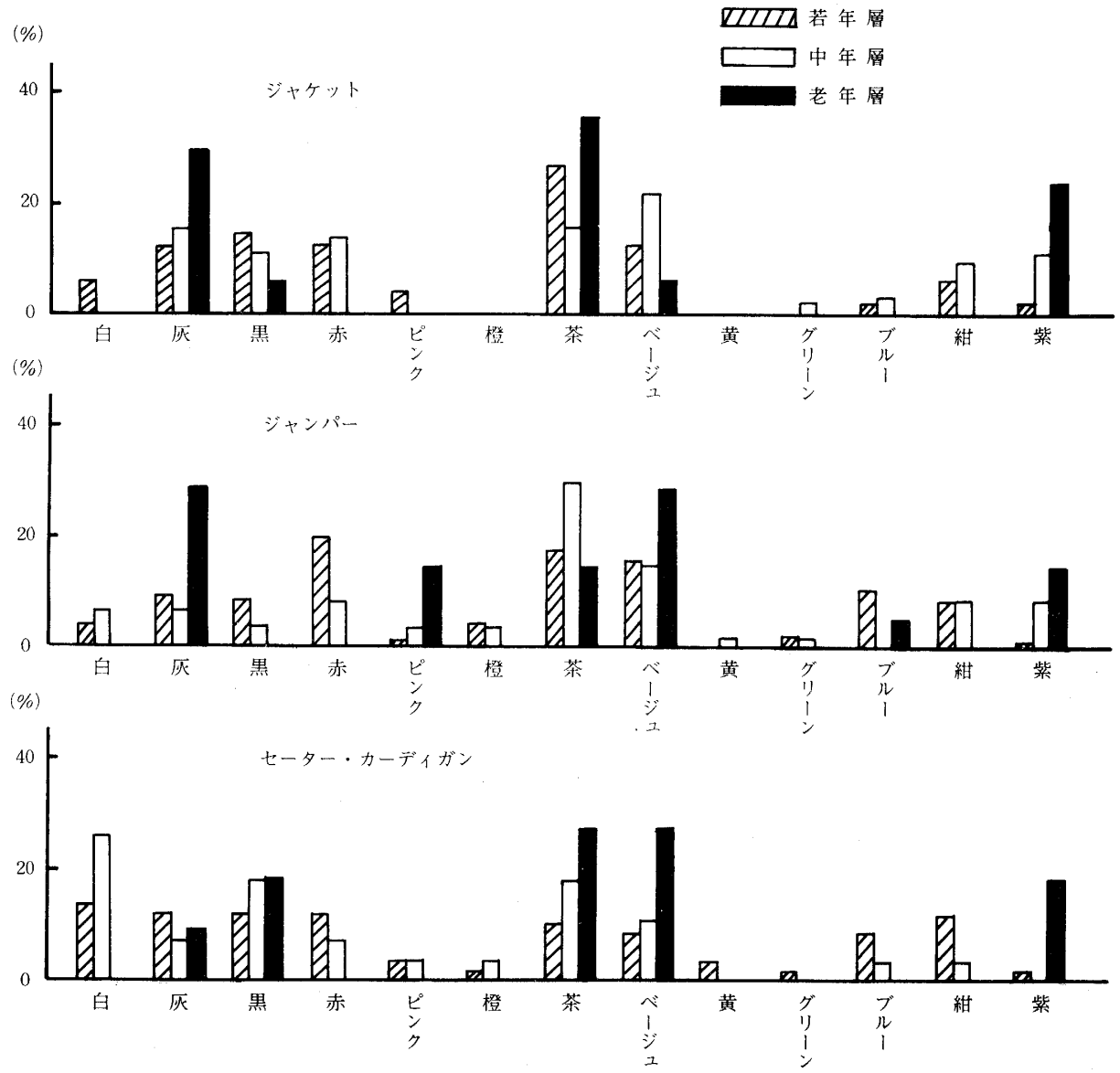

図4　ジャケット，ジャンパー，セーター・カーディガンの色系統

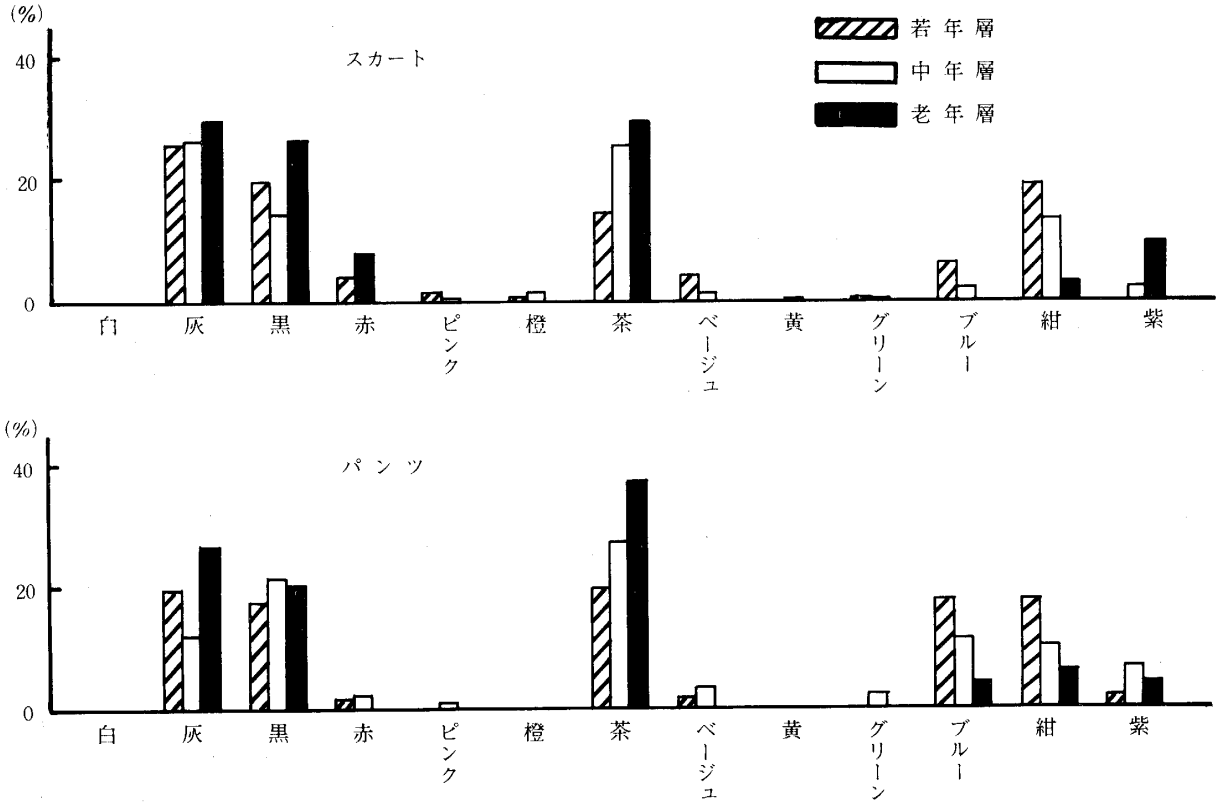

図5　下半身の衣服の色系統

1位を占めているのに対して中年層は茶，ベージュ系統の順で，老年層はベージュ系統と灰色系統が28.6%と同じで最も高い着装率を示している。また，全般にジャンパーの色はジャケットに比べて明るい派手な色系統が好まれるようである。セーター・カーディガンでは，若年層は白系統13.5%，灰，黒，赤，紺系統が11.9%と同じ着装率でつづいているのに対して中年層は白系統が25%，黒，茶系統が17.9%とつづき，老年層は茶，灰色系統が27.3%と同じ着装率で最も高い。このようにセーター・カーディガンではジャケット，ジャンパーと異なり，老年層を除いて白系統が多く着用されている。また，老年層はジャケット，ジャンパー，セーター・カーディガンのいずれにおいても紫系統が他の年代層に比べて多く着用されていることがわかる。

次に冬季の下半身の衣服の色についてスカートおよびパンツに分類して色系統をみると図5に示す通りである。図より，スカートは灰色系統，パンツは茶系統が第1位を占めているが，全体では冬季の下半身の衣服の主な色系統は茶，灰，黒系統といえる。しかし，パンツに全くみられない橙，黄色系統が若・中年層のスカートに着用されるなど，スカートの色系統は多種類にわたって着用されるようである。

ii）衣服の柄

柄は基本的なものとして無地，ヨークや前たてに別布を用いた切替，セーターなどの編込み模様や布地の花柄・幾何学模様を含めて飛び模様，それにチェック，たて縞，よこ縞，斜縞の7項目に分類した。長コートについてみると，無地が各年代共90%以上で，残りの10%弱を飛び模様，チェック，たて縞が占めている。半コートも長コートと同様で89.3%を無地が占め，プリント4.3%，チェック3.6%，切り替え1.4%，よこ縞，斜縞が共に0.7%とごく少数みられる。ジャケットもコートと同様で無地が85.5%と多く，切り替えとチェックが同率で3.8%，飛び模様3.1%，たて縞2.3%よこ縞1.5%となっている。セーターになると無地の占める割合がコートやジャケットに比べるとやや低く76.8%となり，次いで飛び模様14.3%，切り替え5.3%，たて縞とよこ縞が各1.8%とつづいている。セーターの老年層は実数がごく少なかったこともあるが，無地が100%を示した。ジャンパーは全体でみると，

75.3％を無地が占め，切り替えが22.3％とこれに次ぎ，チェック，たて縞，よこ縞が1％前後である。下衣のスカートは無地73.6％，次いでチェック20.1％で，飛び模様，たて縞，よこ縞，斜縞が1～2％ずつみられる。パンツは97.9％とほとんど無地が占めている。

このように，冬季の衣服の柄は無地が大半を占め，年代層間に柄の差は認めることができなかった。ワンピース，ツーピース，カーディガンについては実数50以下と少ないので柄の傾向をみることはできなかった。

4．上衣と下衣の色の組み合せ

着装の形態のうち，上衣がジャケット，ジャンパー，セーターなどで，下衣がスカートかパンツの組み合せにみられるように，上衣と下衣の色が異なる場合，色の組み合せの如何が着装者のイメージに大きく影響を及ぼすものと考えられる。上衣と下衣のように二色配色には色相，明度，彩度差による組み合せがあるが，色相差による組み合せが最もむずかしいと考えられる。また，明度，彩度差による相違は写真より判定することは困難なことから，色相差による上衣と下衣の組み合せについて13色の色系統別に分類してみた。結果は表3－1～3に示す通りである。若年層でみると，下衣の種々の色系統に組み合せられる上衣の色系統は茶22.0％を最高に，ベージュ13.5％，灰と赤が同率で13.1％，黒11.2％とつづいている。一方，上衣の種々の色と組み合わされる下衣の色系統は灰26.6％，黒22.8％，紺16.2％，茶13.5％の順となっており，下衣の方が無彩色の灰，黒の割合が多くみられる。個々の組み合せをみると，茶と灰，茶と黒，灰と灰，赤と灰，赤と黒，黒と灰，茶と紺などが高い比率を示している。中年層では，下衣と組み合わされる上衣の色系統は茶が最も多く27％，次いでベージュ12.6％，灰10.4％と若年層と同じ順位を示している。一方，上衣の種々の色と組み合わされる下衣の色系統としては茶29.3％，灰18.5％，黒17.1％，紺13.5％となっている。個々の色系統の組み合せでは茶と茶が最も多く，次いで茶と灰，茶と黒となっている。人数はごく少ないが赤，ピンク，橙などの色系統もあり，

表3－1　若年層の上衣と下衣の色系統の組合せ

下衣＼上衣		白	灰	黒	赤	ピンク	橙	茶	ベージュ	黄	グリーン	ブルー	紺	紫	総計 人	総計 %
白									1						1	0.4
灰			13	10	11	3	1	15	7	1	1	1	6		69	26.6
黒		3	5	6	10			14	7	2		5	7	1	59	22.8
赤				1	1		1	3	2				1		10	3.9
ピンク		1		2	1			1	1						6	2.3
橙			1					1					1		3	1.1
茶		1	6	2	3		2	9	7		1	2	2		35	13.5
ベージュ			3			1	1	1	1	1					8	3.1
黄				1											1	0.4
グリーン					1										1	0.4
ブルー		3		4	3		1	3	2	1		4	1		22	8.5
紺		2	4	3	4	1		10	7			7	4		42	16.2
紫			2												2	0.8
総計	人	10	34	29	34	5	6	57	35	5	2	19	22	1	259	100.0
	%	3.9	13.1	11.2	13.1	1.9	2.3	22.0	13.5	1.9	0.8	7.4	8.5	0.4	100.0	

表３－２　中年層の上衣と下衣の色系統の組合せ

下衣＼上衣		白	灰	黒	赤	ピンク	橙	茶	ベージュ	黄	グリーン	ブルー	紺	紫	総計 人	総計 %
白																
灰		5	6	5	6	1		11	3				2	2		18.5
黒		1	5	3		1	2	10	6	1		6		3	38	17.1
赤		1	2	2	1			5	2				1	1	15	6.8
ピンク		1	1				1								3	1.3
橙				1							1				2	0.9
茶		1	3	7	6	2		22	13			2	5	4	65	29.3
ベージュ					1			1					2		4	1.8
黄																
グリーン					2							1	2		5	2.2
ブルー		1			1		1	2	2			3		1	11	5.0
紺		3	6	1	4	2	1	6	2			1	1	3	30	13.5
紫		1		3				3						1	8	3.6
総計	人	14	23	22	21	6	5	60	28	1	1	13	13	15	222	100.0
	%	6.3	10.4	9.9	9.5	2.7	2.2	27.0	12.6	0.4	0.4	5.9	5.9	6.8	100.0	

表３－３　老年層の上衣と下衣の色系統の組合せ

下衣＼上衣		白	灰	黒	赤	ピンク	橙	茶	ベージュ	黄	グリーン	ブルー	紺	紫	総計 人	総計 %
白																
灰			6	1	1			6	1					2	17	22.7
黒			6			1		3	2				1	2	15	20.0
赤																
ピンク																
橙																
茶			2	2		1		16	2			1	1	2	27	36.0
ベージュ				1											1	1.3
黄																
グリーン																
ブルー			1											1	2	2.7
紺			1					4	1					1	7	9.3
紫			1					4						1	6	8.0
総計	人		17	4	1	2		33	6			1	2	9	75	100.0
	%		22.7	5.3	1.3	2.7		44.0	8.0			1.3	2.7	12.0	100.0	

若年層との間に大きな差はみられない。老年層についてみると，上衣および下衣とも茶系統が第1位，次いで灰色系統で，この2つで60％前後を占めている。個々の組み合せをみても，茶と茶が最も多く，次いで灰と灰，灰と黒，茶と灰が同じ人数でつづいており，若・中年層とあまり差はみられない。しかし，他の年代層に比べて老年層は着用される色系統の種類は少いことがわかる。

以上，上衣と下衣に組み合わされる色系統は全般に地味な落ち着いた色系統が多く，夏にみられた白との組み合せなどが少い。これは服種別の衣服の色でも明らかなように，衣服の色系統は季節に大いに関係があるといえる。また，ここ数年来，既製服にも若人向けにくすんだ茶，ベージュなどのアースカラーとか，無彩色の服の占める割合が多くなっていることも要因の一つと思われる。

Ⅳ．総　括

冬季の婦人の服装について街頭撮影により写真観察を行った結果，つぎのようなことが明らかになった。

1)　冬季の着装形態は夏の11種に比べて25種類と多く，主な着装形態として長コートとスカート23.1％，ジャンパーとスカート14.3％，ジャケットとスカート10.7％があげられる。また，パンツ形式は夏12.5％に比べて冬23.9％と高い着装率を示し，特に若年層に比べて中・老年層に多くみられた。このことは冬のパンツ形式は防寒の目的が大きいものと考えられる。

2)　長コート，半コート，ジャケットの衿の形は年代を問わずテーラードカラーが最も多く，次いでフラットカラー，コンバーティブルカラー，スタンドカラーが主なものである。また，若・中年層はテーラードカラーの占める割合が比較的小さく，他の種々の衿の形がみられるのに対して老年層はテーラードカラーが過半数を占めた。冬季に21.2％と高い着装率を示したジャンパーの衿の形はスタンドカラーとコンバーティブルカラーが共に42.8％と大部分を占めていることがわかった。

3)　スカートの形についてみると，タイトスカートが37.2％と最も高く，ボックス・片ひだスカート26.4％，総プリーツスカート17.5％がこれにつづいている。夏26.1％と比較的高い着装率を示したギャザースカートは11.7％と低い値を示した。また，年代層別には，老年層はタイトスカートが53.3％と過半数を占めて他の年代層に比べて著しく高い着装率を示し，若年層はギャザースカートの着装率が他の年代層に比べてかなり高い着装率を示した。

4)　冬季の衣服の色系統は夏の白，ブルー系統に対して茶，灰，黒系統が主として着装されることがわかった。また，服種別には下半身の衣服であるスカートおよびパンツは茶，灰，黒が年代層にかかわらず多く着装されるが，上半身の衣服は半コート，ジャンパー，セーター・カーディガンなどの服種および年代層により色系統の違いが認められた。

5)　上衣と下衣の色の組み合せをみると，ここ数年来，若年向きの既製服に茶，ベージュなどのアースカラーや無彩色の占める割合が多いためか，年代層別の著しい差は認められず，各年代共，茶，ベージュ，灰など地味な落ち着いた色系統が多い。しかし，老年層では他の層に比し，色系統の種類は少ない。また，夏に多くみられた白との組み合せは少く，殊に老年層では全くみられなかった。

参　考　文　献

1)　上野清一郎・山本昌子：繊消誌，18，33（1977）
2)　上野清一郎：繊消誌，21，42（1980）
3)　阿部邦子・藤井一枝：本誌，21，65（1983）

（昭和59年10月22日受理）